安曇野市
公式スポーツ施設整備計画

概　要　版

平成27年6月

安曇野市

1. 計画の趣旨・目的

安曇野市では平成23年度にスポーツ振興計画（以下、振興計画）を定め、「豊かな人生を実現する健康スポーツ都市安曇野」を将来像として、総合的に施策を推進しているところです。

公式スポーツ施設整備計画（以下、本計画）は、振興計画における施策の一つである「公共スポーツ施設の整備・充実」のうち、これまで方向性が明確でなかった大規模大会を想定した拠点施設整備に関する計画です。市域以上の範囲の競技者が集まる規模の大会等が可能な施設を「公式スポーツ施設」として位置づけ、その整備計画をとりまとめることを目的としています。

スポーツ振興計画における整備区分

○市民の身近な施設
地域住民の日常的なスポーツ活動を支援する施設。

○地域の核となる施設
各種市内大会や地域のイベントにも対応した各地域のスポーツ活動の中心的な施設。

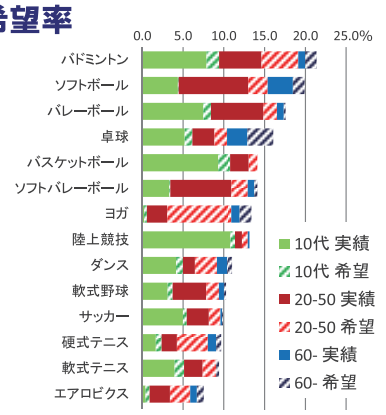
○大規模大会を想定した拠点施設
市内だけでなく市外や県外からの使用を想定し、大規模大会にも利用が可能な拠点となる施設。

本計画の対象

2. 市内のスポーツ施設の現状・課題

参加率・参加希望率

市内居住者の競技スポーツへの参加率・参加希望率をみると、成人で室内球技に参加、または参加を希望する人が多い傾向にあります。



市内居住者の参加率・参加希望率（ジョギング・ボウリング・登山・水泳・ゴルフ等の民間施設でも可能な競技は除いて表示）
（平成22年実施の調査結果より）

施設の数と経過年数

○新たな耐震基準への対応が必要な施設は、南社会体育館(41年)、三郷体育館(48年)、豊科弓道場(38年)、豊科武道館剣道場(60年)の4施設です。

○上記以外で築後30年を超える施設は屋内施設で１施設(明科体育館)、屋外施設では10施設(高家公園グラウンド等)となっています。

合併前の旧町村それぞれで整備してきた施設を維持しており、屋内施設の老朽化が進みつつあります。

市内の社会体育施設の数

市内の対象施設	施設数	うち30年超	豊科	穂高	三郷	堀金	明科
体育館	9	4	2	2	2	2	1
柔剣道場	5	3	1	1	1	1	1
弓道場	1	1	1				
プール	1	0		1			
屋内ゲートボール場	2	0	1			1	
グラウンド	14	7	4	4	2	1	3
テニス	6	2	2	1	1	1	1
マレットゴルフ場	8	1	3	3	1		1
ゲートボール場	1	1					1

施設の規模・利用状況の特徴・課題

全体

○中規模で同類の施設が多く、拠点性に欠け「中途半端」の印象。

○見る側、応援者、待機選手への配慮に欠けた施設が多い。

屋内施設

○参加率・参加希望率の高い球技への対応が必要。

○耐震対策も含め老朽化対策を要する施設が4施設あり。安全確保が必要。

○松本市の体育館予約が熾烈なため、一部が安曇野市に流れてきている傾向の指摘あり。

○大会開催時の競技以外スペースの不足（駐車場、客席、ウォームアップ、昼食の場等）

屋外施設

○グラウンドはすべて「多目的」であり、野球、サッカー、陸上等の専用競技場が明確でなく、施設の整備水準は旧5町村で類似規模・内容の施設が多く横並びの状況。

○冬季閉鎖のグラウンド・テニスコートが9施設ある（全体の約半数）。

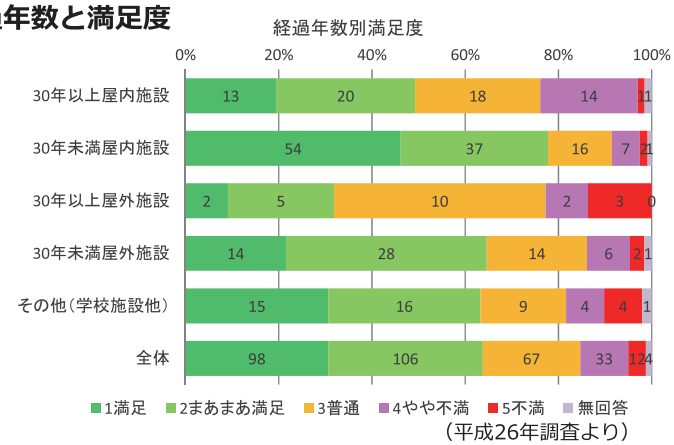
○テニスコートは利用が多い傾向。増設、大会対応も含めた機能強化等の検討が必要。

施設利用者の意向

■施設の経過年数と満足度

古い施設への満足度が低い傾向にある傾向が顕著。

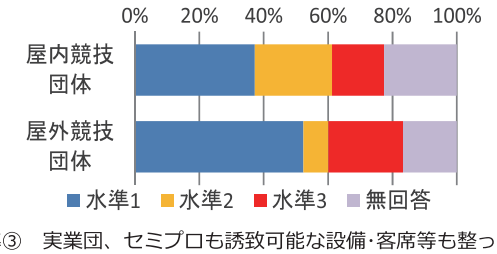
満足度の向上や維持には、施設の継続的な改善、施設の老朽化への対処は重要。



（平成26年調査より）

■今後の施設に求める整備水準

市内の競技団体等への意向調査の傾向からは、市にふさわしい規模の施設整備を望む意見と、現状施設の最大規模程度を求める意見の２つに大きく分かれる傾向。



水準③　実業団、セミプロも誘致可能な設備・客席等も整った施設
水準②　国体の１会場となり相応の客席も整備した施設
水準①　市内でも相対的に大きい規模の既存施設と同等

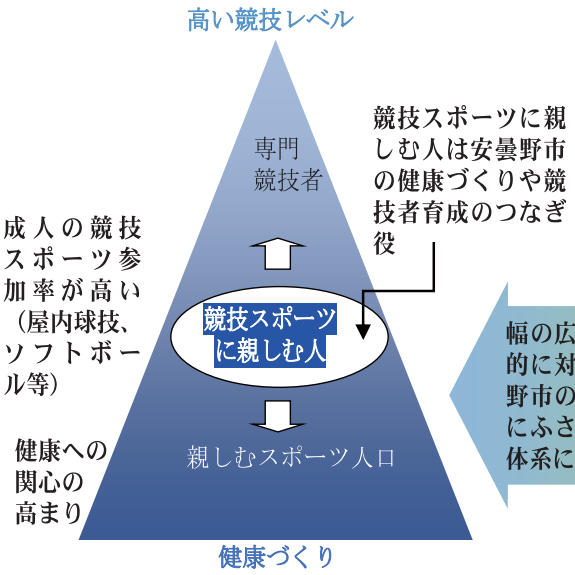
（平成26年調査より）

3. 将来の整備目標と公式スポーツ施設の位置づけ

安曇野市の特色を活かすスポーツ施設体系へ

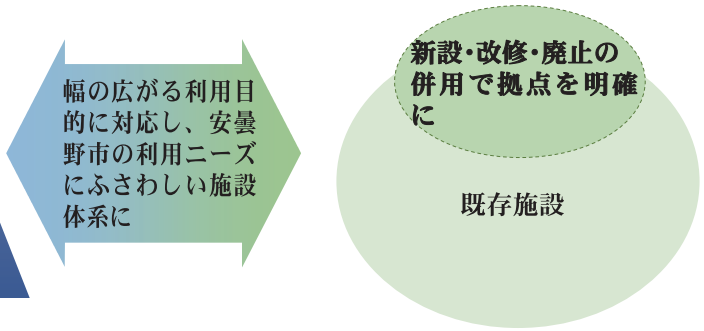
市民の健康増進やコミュニティ形成、競技力向上、スポーツを通じた内外の交流など、スポーツに対するニーズの多様化に対応しながら安曇野市のスポーツ文化を育てていくため、既存のストックを活かし、「拠点となる施設」と「身近な施設」の2つに分け、それぞれの役割に応じた整備を進めていく。

スポーツ人口でみると



施設体系の転換

既存施設は、同質・同規模で並存。幅広いニーズに対応するため、市域及びそれ以上の広い範囲からの利用を受け入れる競技スポーツの拠点を「公式スポーツ施設」として明確化。



体育館　柔剣道場
弓道場

多目的グラウンド
テニスコート
マレット・ゲートボール場

拠点施設化推進と身近な施設の継続的改善の2本柱で進める施設整備

公式スポーツ施設

一般スポーツ施設

公式スポーツ施設【本計画の対象】

■ **スポーツを「する」「見る」「支える」人みながグレードアップを実感できる競技スポーツの拠点施設**

○競技する人にとって、「本物」により近い体験のできる施設に
○応援する人・見る人にとって、心地よく応援、観戦できる空間に

■ **競技スポーツに親しむ輪を安曇野に広げる拠点施設**

○成人の競技スポーツ参加意欲への対応
○地域を代表する競技者育成の場に
○市域全体・市の枠を超えた大会ニーズに対応

■ **安曇野の立地条件に対応した適正規模の拠点施設**

○松本に近い条件と市の保有するストックを最大限有利に活用できる整備

本計画をもとに一定期間をかけて順次整備を進めます。

一般スポーツ施設

■ **市民が気軽にスポーツに親しめる施設**

○「市民」が快適に利用できる施設
○きめ細やかな施設改修・修繕の継続で良好な状態を維持

■ **さまざまな世代の健康増進につながる「生涯スポーツ」実践の場**

○子どもたちのスポーツ離れの解消の場
○市民の健康づくり、リフレッシュにつながる日常的なスポーツ活動の場として整備・維持

■ **多数の身近な施設をフル活用してスポーツによる地域コミュニティを形成**

○地域ごとにバランスよく配置された既存施設を有効活用
○開放されている学校施設も活用し、利用ニーズを充足

状態や要望等を把握し継続的な質の向上に取り組みます。

4. 公式スポーツ施設の整備方針

■「公式スポーツ施設」の整備水準設定

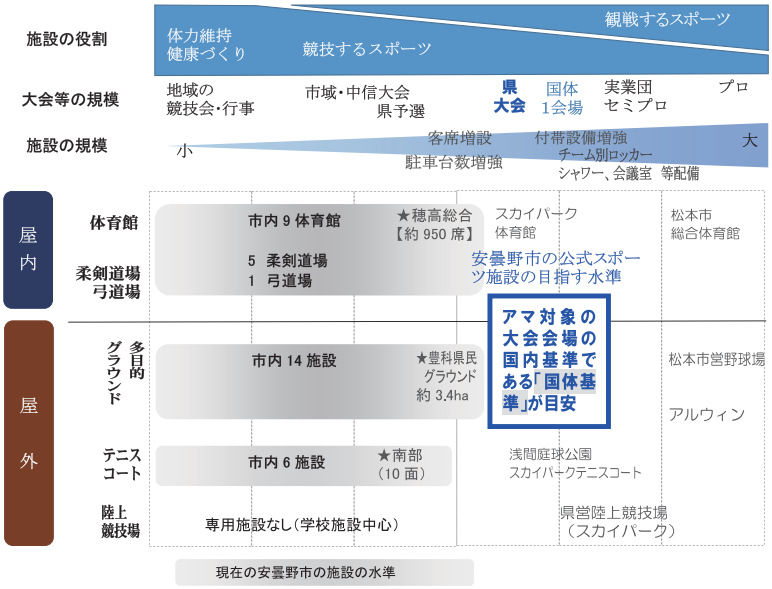
「①競技するためのフィールド」と「②大会や集客のある試合等を運営するための付帯施設の規模」の２つの面から尺度を設けます。

①競技フィールドの整備水準の尺度

競技のフィールドはアマ・国内大会に関する水準で、より上位の基準となる**「国体基準」を満たすこと**をひとつの尺度とします。

②大会会場として必要になる付帯施設等の規模

①のフィールドを使う大会会場として必要な**駐車場・観客席等の付帯施設の規模は**、これまで市内での大会では中信大会規模が大半であったことを踏まえ、**県大会以上を目安**とします。



■ 整備対象施設・対象競技の選定

上記の尺度をもとに、市内の既存の施設を検証し、公式スポーツ施設として整備する必要性の高い種目・施設を絞り込みました。その結果、**総合体育館の整備、専用野球場の整備、テニスコートの拡充、陸上競技の練習機能の強化、サッカー競技場の機能強化の5項目**が見いだされました。

公式スポーツ施設整備対象の選定の概要

・現存施設で行われていて参加率が高いか利用減免登録団体のある競技
・施設規模を左右する大きなフィールドを要する競技・国体競技種目

■体育館
バレー・ソフトバレー
バドミントン　バスケットボール
■弓道場　弓道　■柔剣道場

■グラウンド
ソフトボール、野球、サッカー・ラグビー、陸上競技
■テニスコート

○：公式スポーツ施設整備の対象競技・施設
△：練習場としての機能確保を重視する競技・施設

【屋内競技】
○：既存の廃止を含めた総合体育館の整備
バレー２、バスケ２、バド８面以上の機能
△：柔剣道場　弓道場

【屋外競技】
○現在多数ある多目的グラウンドから、拡張・機能拡充により専用施設への転換を具体化
（専用野球場整備、サッカー競技場機能強化）
○テニスコートの拡充を具体化
△陸上競技の練習機能強化

利用団体意向調査・既存施設の「国体基準」充足状況等を分析

施設別の検討の概要1　体育館

○市内の体育館で各種競技の国体基準の競技フィールドを一括で満たすことのできる施設はありません。
○室内競技の参加率も高く施設稼働率も高い状況の中、競技者のニーズをさらに満たせる「公式スポーツ施設」として位置づく体育館の整備を、老朽化施設の廃止・既存施設の改善と一体で進めることが重要です。

【既存施設の課題】
○国体基準に準じる規模の施設としては穂高体育館、堀金体育館があげられますが、以下の点で課題があります。
・バレーボール2面そのものの広さはあるがウォームアップスペースが確保困難。
・バスケットボールコート2面(コート間隔7m)を確保できるが、余裕が一切ない。
・駐車スペースが充分にない　等

施設別検討の概要2　武道場

旧5町村それぞれに武道場があり、その利用やニーズ踏まえると公式スポーツ施設整備以上に練習場としての機能確保が重視される競技・施設であると考えられます。

施設別検討の概要3　屋外競技施設

○参加率が高い競技で公認規模の施設が市内にない種目である「野球」、「陸上競技」に関する施設整備を進める必要があります。ただし、陸上競技に関しては、10代以下の世代が大半を占め、かつ、競技会の開催の可能な施設の整備･管理運営費は膨大になるため、公認サイズの施設の早急な整備の必要性は低いと考えられます。
○国体基準を満たす規模の競技フィールドをもつ施設（テニスコート、サッカー）についても、その機能強化、拡充を図る必要があります。

国体の一会場の規模のフィールドをもつ市内の施設

■ソフトボール

県民豊科運動広場

有明運動場

■サッカー

牧運動場

■軟式テニス

南部総合公園テニスコート

■　新規施設整備の緊急性･必要性の整理と優先度

前項で見出した5項目のうち、新規施設の整備の緊急性と必要性を整理し、実施に向けた優先順位を検討しました。**新規の施設整備を優先するのは体育館と野球場**です。

より高　新規施設整備の緊急性･必要性　やや低

総合体育館

施設利用のニーズ・稼働状況、老朽化の進行（南社会体育館の代替施設選定の緊急性）、過去の検討経緯を考慮すると整備の緊急度・必要性は最も高い。

野球場

「野球場」については、公式スポーツ施設で目指す整備水準に達している施設が現在ないことから整備の必要性は高い。ただし、競技者、使用期間が限定されるため、ニーズの充足規模の面で体育館に準じる位置にあると考えられる。通年利用の観点から屋根付き施設(ドーム型)も検討の余地はあるが、早期整備のニーズへの対応が困難であるため、屋外施設としての整備を重視する。

テニスコート

南部総合公園のテニスコートは10面あり、比較的早期に硬式庭球場の国体基準（12面）を満たせる可能性が高く、利用者数も多いことから早期整備の候補となる。

陸上競技練習施設

専用施設は市内にないが、公認施設は管理負担が大きいため整備せず練習機能強化を重視。公式スポーツ施設の拠点化整備の中で、一部をランニングコース、練習エリア化する等の措置で対応する方向で計画する。

サッカー場機能強化

国体１会場基準の競技フィールドを有する「牧運動場」にて機能の強化を図るとともに、通年利用の促進の観点からの将来計画として、利用期間をより延長できる人工芝フィールドの整備を本計画に位置づける。

＜施設の集約･拠点形成に関する考え方＞

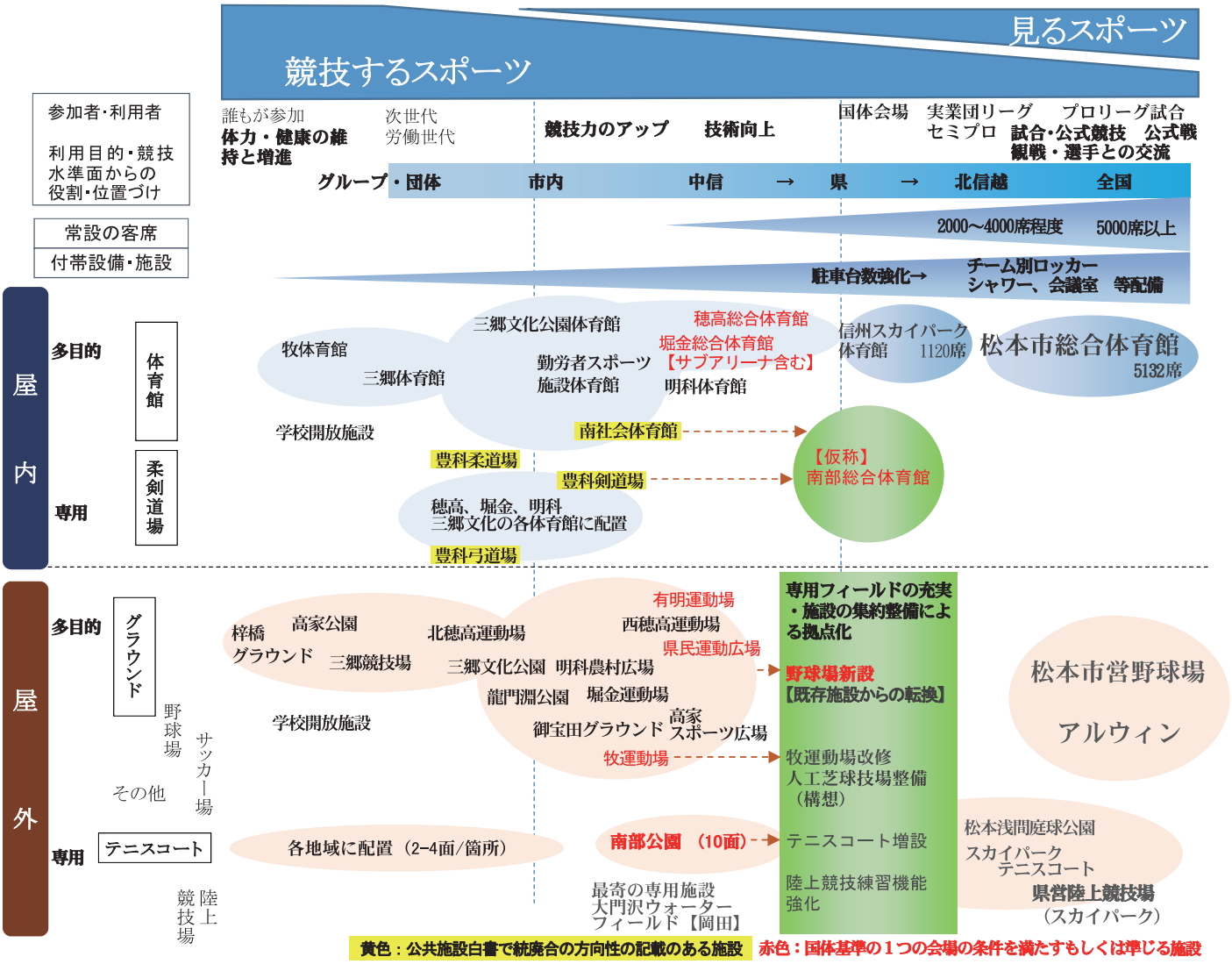
○本計画の目標像を踏まえると、これらの施設整備はできるだけ1つのエリアに集約し、「拠点」とすることが望ましいですが、予算措置（合併特例債の期限）、用地の確保等、解決の難しい課題が残ります。一方で、施設の老朽化や統廃合を急ぐ必要性や十分な競技環境の整っていない施設への対応等、直面する課題解決も必要です。
○このため、将来的な拠点形成を視野に入れつつ、市内に複数ある既存施設を有効に活用しながら整備を進めることが有効な手法になると考えられます。

5. 整備の全体像と施設別整備方針

■ 公式スポーツ施設整備の全体像

【屋内競技施設】
○南部総合公園への総合体育館の整備を具体化
○国体基準の競技フィールドを確保し、県大会規模の運営に必要な機能を追加

【屋外競技施設】
○現在多数ある多目的グラウンドから、拡張･機能拡充により専用施設への転換を具体化（**専用野球場整備新規1施設、サッカー：牧運動場改修**）
○テニスコートは南部総合公園の**テニスコートの拡張**を具体化
○陸上は**練習機能強化**
○将来的に**人工芝の球技場整備を構想**として位置づけ

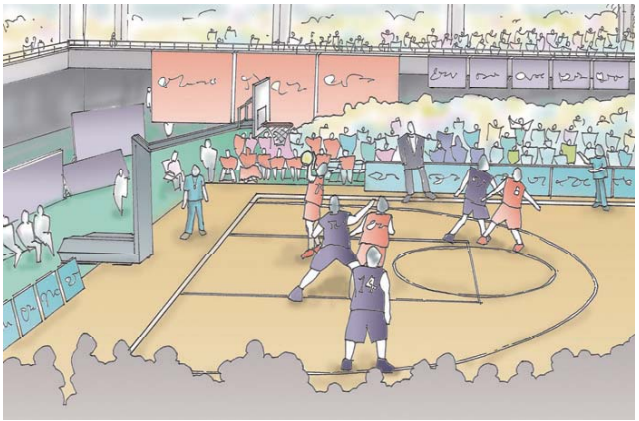


■ 施設別整備方針

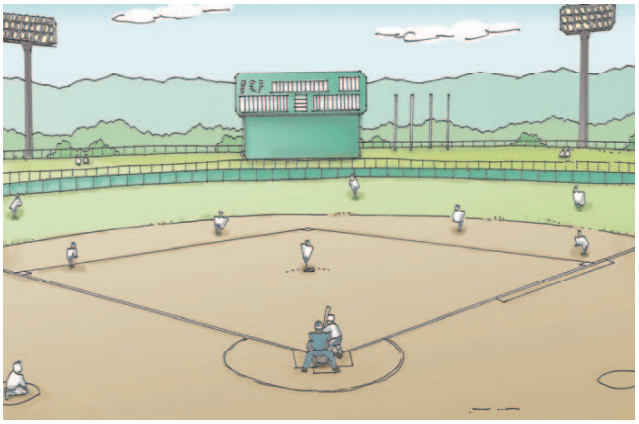
体育館

【整備方針】
○「安曇野市の総合体育館」として南部総合公園に整備し、安曇野市の各種屋内競技の利用ニーズを充足。
○老朽化の進む南社会体育館に代わる施設として位置づけ、市内の公共施設の整理統合にも配慮して整備。

【整備水準】
・見る側、応援する側、待つ選手のスペースを充実させ、県大会レベルの大会を受け入れ、スポーツを「する」「見る」「支える」取り組みが有機的につながる施設
・バレーボールコート同時3面、バスケットボールコート同時2面以上の規模のメインアリーナ
・バレーボール、バスケットボール等1面相当の競技が可能な面積のサブアリーナ
・相応規模の駐車スペースを確保



野球場



【整備方針】

○野球に関しては市内で数百人を超える規模の競技団体があるにもかかわらず、市内に専用競技施設がないことから、良好な競技環境の確保の観点に立って整備。

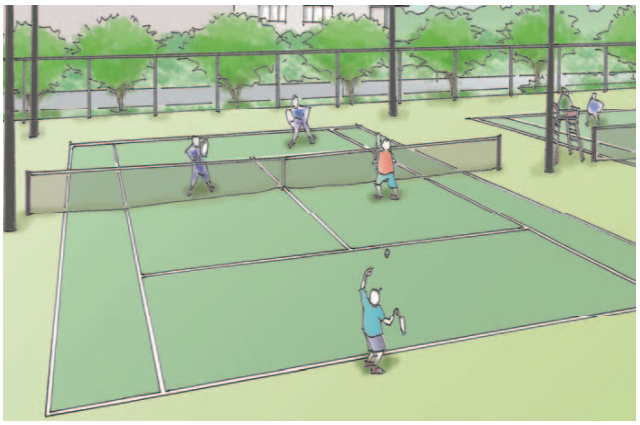
○早期に整備を行う場合は、既存体育施設の敷地の利活用により整備する方法が最も実現の可能性が高い。（新規の用地を早期に確保できる場合はこの限りでない）

【新規施設整備水準】

・高校野球予選会場として機能する競技施設

・社会人１種の軟式野球の公認規模以上で、ホームベースから中堅までの距離を120m確保する規模を想定

テニスコート



【整備方針】

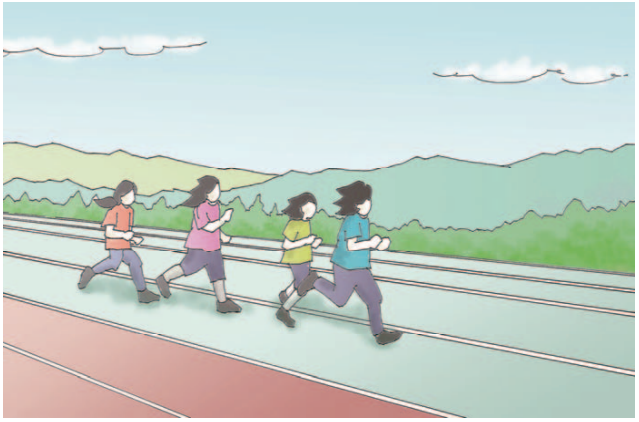
○南部総合公園に10面の施設があり、この施設が国体の1会場に相当する施設に最も近い規模の施設。本施設を市内のテニスコートの「公式スポーツ施設」として位置づけ、国体基準相当のフィールドを有する施設へグレードアップ。

【南部総合公園テニスコート改修】

・2面増により国体1会場の規模を確保

・仮設工作物である管理施設を改善
（体育館と一体でクラブハウス機能を確保）

陸上競技練習施設



【整備方針】

○維持管理負担の大きな公認施設の整備は困難であるものの、近年の競技成績向上等により練習拠点確保への期待は高い。将来的なスポーツ施設の拠点化整備にあわせて、陸上競技の練習機能を強化できる施設の整備を想定。

【新規施設整備水準】

・ランニング、ジョギング等の専用コース

・直線コース(延長100m程度)と周回コース（1周400m程度）を有するトラック競技の練習コース

球技場（サッカー場）

【整備方針】

○現存する施設で国体基準相当の規模を有する牧運動場を市内におけるサッカーの「公式スポーツ施設」として位置づけ、その改善を行い、機能の充実を図り、当面の利用者ニーズの高まりに対応。

○別途、将来構想として、今後想定されるスポーツ施設の拠点整備の際に人工芝型の多目的球技場整備を具体化。

【牧運動場改修】

・フィールドの人工芝化の検討　・駐車場の追加整備

・照明の増設

・管理棟の改築によりクラブハウス機能を強化

6. 整備の進め方

優先度の高い施設を比較的平坦で交通の便もよい立地1箇所に集約・整備する方法が、拠点整備の面から理想的なスタイルですが、その規模が大きくなるほど、用地確保、農地転用の面での課題が生じ、迅速な対応が困難となります。

本計画では、市民の参加率の高い種目におけるニーズを早期に満たす整備を目指す観点に立ち、**既存の多数の施設の中から、将来的に拠点として誘導でき得る施設を複数選び、２箇所程度の拠点（このうち、1箇所は南部総合公園）を形成していく方法で整備を進める方針とします。**

分散する施設を活用して整備を進めつつも徐々に拠点化

数ある既存施設のうちから、施設を絞り、拡張整備・機能拡充・統廃合等で「公式スポーツ施設」として整備

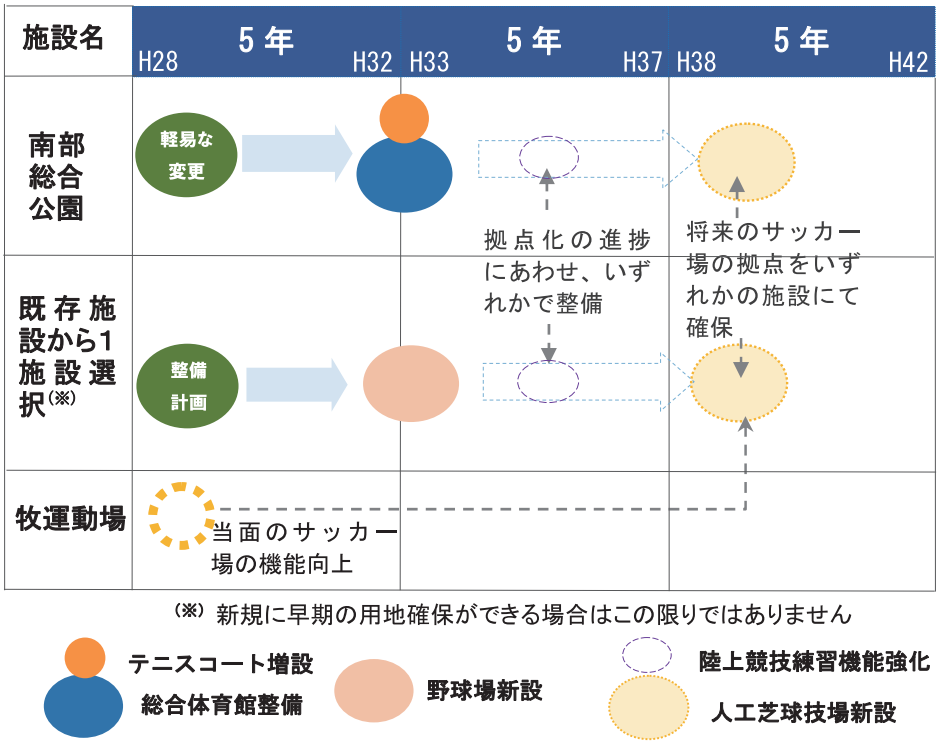
将来的な整理・統合、拡張の余地のあるエリアを（2箇所程度を目安）定め、段階的に拠点化整備を進めることを基本に据える。

複数拠点化による将来整備のイメージ

○南部総合公園で総合体育館を整備。テニスコート増設も同時並行で検討。

○その他既存の１施設を拡張して野球場、サブグラウンドを整備。

○陸上練習機能強化、球技場については、上記の2拠点のうち、いずれかで将来の拡張にあわせて整備を進める。



(※) 新規に早期の用地確保ができる場合はこの限りではありません

7. 施設の利活用方針

今後、整備を目指すスポーツの拠点施設は、次のような利活用が可能な施設として整備を進めます。

方針１　大規模な大会･行催事の開催
方針２　市民の日常健康づくり、交流の場としての日常的な利活用
方針３　競技力向上のための体制の構築と指導者育成に関する活動の拠点
方針４　トップ・アスリートとの交流の機会創出
方針５　スポーツ、イベント、集会などにも利用可能な施設としての多目的活用

安曇野市公式スポーツ施設整備計画【概要版】　平成27年６月
安曇野市教育委員会　教育部 生涯学習課 スポーツ推進担当
〒399-8281　安曇野市豊科6000　電話0263-71-2000（代）